

知るほどに深く、暮らすほどに温かい。

高野町

何度でも訪れたい。ずっと暮らしたい。

雄大な自然、1200年の歴史、世界中から支持される観光…

知れば知るほどまちの魅力の奥深さに惹かれていく。

暮らせば暮らすほど、まちの温かさを実感していく。

あなたに知ってほしい。感じてほしい。

荘厳さの中に温かさがあるまち、高野町を。



和歌山県 高野町

町民憲章

緑深き山々に包まれた高野町は、歴史の重みと文化の香りが宿る町です。

私たちは、先人の努力をうけつぎ、心のふるさと高野町をこよなく愛し、希望に満ちた“世界に開けゆく文化の町”を創るため、この憲章を定め、その実現に努めます。

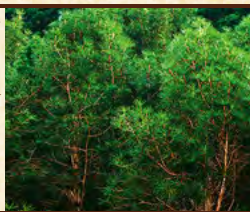
1. 歴史と伝統に培われた、仏都にふさわしい魅力あるまちをつくります。
1. 緑豊かな森林を愛し、恵まれた自然に調和した美しいまちをつくります。
1. 心のふれあいを大切にし、訪れる人々にも思いやりのあるまちをつくります。
1. 未来をになう子供たちの夢を育むまちをつくります。
1. 心身をきたえ、健康で明るい活力あるまちをつくります。

町章



昭和37年10月1日制定。
高野町の「高」を図案化し、「塔」（歴史）をかたどって、「太陽」（町政の発展）と「月」（平和と文化）をいだき限りなく繁栄する高野町をあらわしています。

町の木 高野槇 こうやまき



本州の中部から近畿・四国・九州に分布する中で、特に高野山に多いため、この名がつけました。コウヤマキ科コウヤマキ属の樹木で、枝葉は仏前の供花として、また土産物として多くの人々に親しまれています。

町の花 石楠花 しゃくなげ



「石楠花の高野に住みて且つ院家」これは俳人、森白象が詠んだもの。高野を代表する石楠花は、山地に生えるツツジ科の常緑低木で、初夏になると淡紅色の優雅な花が集まって咲きます。



高野町町制施行90周年並びに
富貴村合併60周年記念町勢要覧発刊によせて

宗教環境道德のまち

～誰もが安心して暮らせるまちを目指して～

高野町長 平野嘉也

高野町は昭和3年11月1日に町制を施行し、30年後の昭和33年6月1日に町村合併促進法により富貴村と合併し現在の高野町が生まれました。平成30年度は町制が施行されてから90年、富貴村と合併してから60年の節目の年を迎えました。

高野町は和歌山県の北東部に位置し、弘法大師空海が修行の場として開いた高野山真言宗の聖地「高野山」を中心とする紀伊半島の大自然に囲まれた町で、貴重な文化財、建造物、名所が数多く存在しています。

2004年には「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録され、2016年には女人道・黒河道・京大坂道不動坂が世界遺産に追加登録され、日本のみならず世界中から多くの観光客が訪れています。

自然・歴史・文化・伝統のある高野町は「誰もが住みよい、住みたくなる、来たくなる」まちを目指し、様々なまちづくりに取り組んでいます。

この要覧は高野町の魅力を多くの方に知っていただくため、現在の町の施策や町の姿をわかりやすくまとめたものです。どうぞこの冊子をゆっくりご覧いただき、新しいまちづくりへの参画など、明日の高野町づくりにお力添えをいただければ幸いです。



もくじ

町長あいさつ	3	産業	11
「訪れたい、住みたい」の魅力あふれる高野町	4	子育て・教育	12
まちづくり	6	生きがい	14
風景	8	生活環境	16
歴史	9	移住定住	18
観光	10		

「訪りたい、住みたい」の魅力あふれる 高野町

古くから仏都と呼ばれる高野町には、日本の「こころ」が凝縮されています。荘厳な寺社や仏閣、歴史ある伝統行事、心が洗われるかのような美しい自然。そして郷土を愛し、訪れる人をもてなす心。そんな「こころ」豊かな高野町は、訪れる人にも、住む人にも「温かい」まちなのです。



かつらぎ町

まちづくり

共に築いていく
まちの未来

6ページへ



風景

山々に囲まれた
豊かな土地

8ページへ



歴史

1200年の時を想う

9ページへ



かつらぎ町

移住定住

田舎暮らしを応援

18ページへ

生活環境

誰もが安心して暮らせる
環境づくり

16ページへ

生きがい

元気に、いきいきと

14ページへ



観光

世界中の人々を
魅了する名所

10ページへ

産業

風土を活かした産業

11ページへ

子育て・教育

未来の宝の可能性を磨く

12ページへ





今、高野町は「町民が主役」のまちづくりを目指しています。古くからの歴史と文化、伝統を大切に、自然環境に恵まれたまち、高野町。そんなまちの魅力を住民主体で広く発信していこうとしています。



AED講習

安心・安全なまちづくり

住民一人ひとりが「住んでよかった・住み続けたい」と思えるよう、住民一人ひとりの生命を守り、生活の安全・安心を確保します。

取り組み内容

● 医療

- ①夜間救急体制の拡大
- ②訪問看護の充実と通所リハビリ施設を開設

● 地域防災力の強化

- ①全地区を自主防災組織として指定
- ②ハザードマップの作成

● 消防力の強化

- ①AEDの設置場所の普及、講習会の実施
- ②消防団員の確保



通所リハビリ施設

産業の安定に向けた地域活性化

産業の振興には、高野町の特徴を活かした地域産業の育成と新産業の創出によるバランスの取れた発展を続けることが大切です。

取り組み内容

● 地域資源を活かした産業振興の充実

- ①「高野の手仕事」の承継
- ②耕作放棄地の活用
- ③農業遺産登録に向けた取り組み
- ④地元米を学校給食に提供
- ⑤新規就農者の支援



地元米を使用した給食



高野榎

すべての世代が生き生きと暮らす あんねい 安寧都市の実現

誰もが住み続けたいと思えるまちの魅力を高め、すべての世代が活力あふれるまちを推進しています。



英語授業

取り組み内容

● 子育て環境の充実

- ①保育・幼児教育・義務教育の無償化
- ②英語教育の推進
- ③学童保育の充実
- ④子育て支援センターの充実

● 社会教育の充実

- ①ふるさと教育の充実
- ②スポーツ・レクリエーション教室の充実

● 健康寿命の延伸

- ①フィットネスジムの開設
- ②ウォーキングイベントの実施
- ③地域包括ケアシステムの構築

● 住環境の整備

- ①ゴミ袋の無料配布
- ②デマンドタクシーの充実
- ③福祉有償タクシーの導入
- ④公営住宅の長寿命化
- ⑤下水処理場の長寿命化
- ⑥生活用水の整備
- ⑦外出支援タクシーチケット制度導入



ウォーキング前の血圧測定

● 過疎対策事業の充実

- ①過疎対策が必要な集落に対する支援
- ②お試し住宅の活用による移住者支援
- ③空き家対策



ウォーキング

交流人口拡大に向けたまちづくり

雄大な自然、1200年にわたる悠久の歴史、地域の伝統文化、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」等、世界に誇れる魅力が数多くあり、世界中から多くの観光客が訪れています。直接的な交流のみならず、社会の潮流に合わせた多様な関わり方を取り入れたまちづくりを推進しています。



高野山観光情報センター

取り組み内容

● 観光産業の活性化

- ①高野山観光情報センターを拠点とした情報発信
- ②外国人観光客向けホームページの作成
- ③多言語パンフレットの作成
- ④観光ナビアプリの作成

● 交流人口の拡大

- ①まちかどサロン〜縁〜の開設
- ②徳バック(高野町団体旅行補助制度)の実施
- ③姉妹都市善通寺市との交流
- ④ルンビニ(ネパール)との交流



まちかどサロン〜縁〜

● 歴史と文化に調和した町並みづくり

- ①周辺と調和した建築物、工作物、看板の設置を推進
- ②歩行者にやさしい道の整備(石畳風)

● 多様な関わり方の確立

- ①ふるさと応援寄附金制度の利用者とのつながり
- ②フェイスブックやInstagramを通じたつながり
- ③大学との連携による交流



山と人、守り育む土地

高野町は、弘法大師空海の教えを守り伝える高野山を中心とした、歴史、文化、伝統、そして豊かな自然を有するまちです。人々が祈る姿、聖地ならではの景観など、一つひとつが風景となって息づき、大切に受け継がれています。



心と身体を癒す 森林セラピー

森林セラピーとは、森の自然が織りなす風景や香り、音色や肌触りなど五感を使って楽しむことで、心と身体がリセットされる癒しのプログラムです。



河川清掃で まちを美しく

筒香地区を流れる丹生川で一斉清掃活動を実施。地区住民や漁協組合、町職員、町議員などが一丸となって取り組んでいます。年々ごみの量は減少してきていますが、河川美化の重要な取り組みとして毎年実施しています。



修景整備事業

高野町の町並みを保全するため建物や工作物、看板に対する修景事業を実施しています。電線の地中化や石畳風の道路に修繕するなど歩く人にやさしいまちづくりを推進しています。



高野山の春を告げる「高野の火まつり」



ご先祖や無縁仏を供養する「ろうそくまつり」



晩秋、山やまちを彩る木々



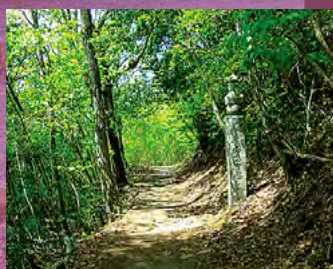
雪化粧の壇上伽藍



1200年。 悠久のを感じさせる 世界が広がる

弘法大師空海によって開かれた真言密教の修行道場であり、高野山真言宗の総本山として、日本だけでなく世界にその名が知られている高野山。標高約800mの山上は日本仏教の一大聖地で、織田信長や豊臣秀吉など、多くの歴史人が眠っています。静寂かつ荘厳な空間、あせることのない聖地としての風格、そして信仰の伝統が脈々と息づくこの地には、祈りを捧げる人々の姿が絶えません。

悠久の歴史を感じる高野山の日常



世界遺産高野町

「紀伊山地の霊場と参詣道」として2004年に世界遺産に登録され、また2016年には「女人道・黒河道・京大坂道不動坂」が追加登録されました。



弘法大師空海の降誕を祝う青葉まつり

「青葉まつり」は、青葉輝く6月15日、弘法大師空海誕生の日に行われる宗祖降誕会。稚児行列を先導に青葉娘による散華が行われる花御堂渡御（はなみどうとぎよ）を中心に、さまざまな催し物が繰り広げられます。



人々を魅了する 五感で感じるおもてなし

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の内、金剛峯寺を中心とした高野山と、高野山にまつわる周辺地域の史跡などは、世界遺産の発信とにぎわい創出を担う重要な拠点のひとつです。毎年140万人の参拝客、観光客が国内や海外から訪れており特に外国人観光客は8万人を超えています。豊かな自然と歴史文化が育んできた「おもてなしのこころ」で訪れた人々の五感を刺激するまちづくりをすすめています。



提灯明かりで夜をゆく お速夜^{たいうや}ナイトウォーク

毎月20日、お大師さまの日(21日)前夜のお速夜に、奥之院をお参りするイベント。日々の生活のことを振り返り、日常に感謝して祈りを捧げ、報恩のお参りをします。



まちが活気づく縁日 報恩・高野市

昭和30年初頭まで行われていた「高野市」を復興。食料品や衣料品、日用雑貨などを売る「市」として、商店や飲食店、土産物店の振興に繋がっています。

聖地の森が人々の五感を輝かせる



高野町ならではの 風土を活かした産業

高野町は、かけがえのない価値ある豊富な地域資源に恵まれています。信仰の聖地高野山を中心とした観光をはじめ、高冷地ならではの高原野菜を生み出す農業、杉や檜といった高野六木を産出する林業など、豊かな資源を活かした産業を育成してきました。これからは地域の特色と産業の融和を図り、地場産業の育成によって自立した豊かなまちを目指します。

高野町交流ひろば



地域の各団体が出店し交流を深めながら同時に参加者とのふれあいが生まれ、秋のイベントとして実施。地元野菜の販売や個性豊かな出店で賑わいます。

受け継がれる伝統産業



上質な檜を乾燥させてつくる「ヒノキひも」や、富貴地区伝統の薄板づくり、杖ヶ藪地区で古くから続く位牌づくりなどの伝統産業が盛んです。高野町ならではの伝統が、人に、地域に息づいています。

胡麻豆腐をはじめとする特産品

精進料理の一品、胡麻豆腐をはじめ、焼き餅、線香、和漢胃腸薬といった高野町の特産品は、高野山にふさわしいものばかりです。それらは参拝客、観光客から人気があり、リピーターも多くいます。





「未来の宝」
子どもたちの
可能性を伸ばす

雪上運動会

児童が雪の楽しさを感じながら、寒さに負けない強い体をつくってもらおうと、1月に開催しています。児童は、リレーや綱引きなどの種目を雪や風の冷たさなどものともせず、走ったり滑ったり。真っ白の運動場に元気な声が響き渡ります。



子どもたちの学びの場「サンわく学」

「燦々(さんさん)とした太陽(SUN)のもとでワクワク楽しく学ぼう」がコンセプトの公民館子ども対象事業。ものづくりやお祭りの手伝い、町石道ハイキングなどを企画し、学習の場を提供しています。

無限の可能性を秘めた「まちの宝」である子どもたちは、次代を生きるかけがえのない「未来の宝」でもあります。高野町では、「子育てする全ての家庭を地域全体で支えていく」という視点に立ち、子どもが健やかに育つ環境づくりをすすめています。近い未来、育った子どもたちが高野町を愛し、未来の高野町を支えていける「宝」となるよう、子どもたちの可能性を伸ばすまちづくりをすすめています。

発表する力をつける

学習発表会をはじめ、自ら調べ、人前で発表する力を身につけ、社会に対応できる教育を推進しています。



給食費・医療費・保育料・義務教育無償化

町内のこども園から中学校までの園児、児童生徒の給食を無償化しています。また、中学校卒業までの医療費や保育料、義務教育(教材、修学旅行・遠足等)も無償化するなど、子育て家庭の暮らしに直結する支援が充実しています。





「いつまでも元気で、 いきいきと」 暮らす仕組み



3B体操で健康づくり

高野山学で高野山を知る

高野山学は、高野山独自の文化の歴史・思想・宗教・芸術・信仰・自然・政治などを体系的に学ぶ講座。総本山金剛峯寺・高野山大学・高野町・高野町教育委員会の連携によって開講し、聖地高野山の精神を学び・守り・伝えています。



町民教養講座

生涯学習の推進を目的に、平成24年度より始まった「教え合い学び合う」講座。社会教育委員が担当し、子どもと保護者が一緒になって参加する和太鼓体験や、講師を招いての茶道教室、写仏を伴う「観音経物語」など、内容は多岐にわたり、教養を楽しく身につけています。

フィットネスジムの開設

未病予防を目的とし、フィットネスジムを開設。ヨガ教室なども開催し健康増進に役立っています。



誰もが健康ではつらつと元気に暮らす。そんな日常生活の実現は基本であり、かつ重要なまちづくりの一つです。高野町では、地域で支え合うネットワークづくりの推進によって、高齢者や障がいのある人が誇りと生きがいを持って暮らせる仕組みづくりをすすめています。また、住民が自主的に参加できる高野町ならではの学習環境を整備し、いきいきとした暮らしの実現を支援しています。



大人のサンわく学

公民館事業として、弘法大師空海ゆかりの地を高野山大学名誉教授山陰加春夫(やまかげかずお)先生が同行し巡る、大人向けの学びの場です。参加者同士の交流も楽しい人気の事業です。





安心を育む 活気に満ちたまちづくり



町全域での防災訓練・教育により、安全の確立に取り組む

乗り合いタクシー

日常生活に必要な移動手段を確保するため、誰でも利用できる公共交通として「ハイランドタクシー（定期運行）」と「ふれあいタクシー（デマンド運行・6路線）」の2系統で運行しています。



住民の誰もが快適に暮らせる生活環境の整備をすすめています。住民自らによる主体的なまちづくりへの参画や、誰もが円滑に移動できる交通体系づくり、防災体制の確立と安心・安全なシステムの構築など、分野はさまざま。「まちをよくしたい」「自分たちで何か始めたい」そんな一人ひとりの温かい「こころ」によって、高野町はより活気に満ちたまちへと、その未来が切り拓かれていきます。



緊急通報システム

一人暮らしの高齢者の割合が高くなっていることから、地域あんしんネットワーク構築事業として緊急通報システムを導入。急病や災害時に地域ぐるみで対応し、安心・安全の確保に繋がっています。



様々な災害への備え

小型除雪車の購入や自主防災組織を全地区指定、ハザードマップ・防災ラジオの各戸配布など災害に備えています。





温かいまち高野町での暮らしを応援

緑豊かな山々の清々しさ、歴史や文化、伝統の奥深さ、そして地域に住む人々の温かさは、都会ではなかなか味わえない高野町の魅力。子どもたちも地域の中で、心豊かに育ちます。高野町では、居住者の受け入れを促進するために、空き家等の調査や農家民泊の実施などを行っています。また、家屋の貸し手となる人を随時受け付けし、Iターン・Uターン者の定住を促進しています。



住み良さを実感する暮らし

移住定住促進補助金



定住人口の増加と活力ある地域づくりを推進するため、住宅の取得に対し、補助金を交付しています。現在高野町民の方、これから高野町民となる方を対象としています。

移住相談会・フェア開催



高野町への移住希望者向けの相談会やフェアを実施。高野町での暮らし方などを説明しています。

空き家相談



町内にある空き家等の有効利用を通して、町民と都市住民の交流の拡大や、移住定住の促進を図るため、空き家情報登録制度を実施。移住希望者への情報提供が円滑にできます。



高野町は
これからも着実に歩みをすすめ、
歴史を積み重ねていく。

数々の魅力により磨きをかけ、
さらに人々を惹きつけていくことだろう。

高野町にぜひ訪れてほしい。
そして、もっと多くの魅力を感じてほしい。

知るほどに深く、暮らすほどに温かい。
高野町の魅力を。





高野町町勢要覧

発行年月

平成30(2018)年11月

編集・発行

高野町

〒648-0281 和歌山県伊都郡高野町大字高野山636

TEL 0736-56-3000 / FAX 0736-56-4745



制作:株式会社日本出版